

令和6年度 エーザイ豊友会本庄支部

「総会・昼食会」～支え合って心豊かに生きる～

令和6年5月29日本庄支部総会・昼食会を本庄・五州園で開催しました。高化が進む支部だが今年も本庄を懐かしむ方や最高年齢91歳の男性、女性の二人を含めて総勢80人でした。参加可否の返信ハガキの近況を無記名で一覧表にしてテーブルに置き状況の理解を得た。

返信ハガキの回収率は80%、参加者はコロナ前を上回り役員も準備しがいがあった。総会にあたり概況報告

この一年間に逝去された方11人を読み上げ、ご冥福を祈り、現役時に同じ釜の飯を食べた間柄、在りし日の姿を偲び黙禱をしました。

続いて本部・飯島事務局長から豊友会の全国的変化から規約改正に至った経緯の説明があった。更に東京支部の講演・東京総合病院・羽生春夫先生の「認知症にならない為には運動、食事、睡眠、社会との接点が大切」と言う紹介があり再認識した。

社会との接点とは豊友会への参加も一つとの説明だった。

続いてエーザイ(株)労務部・大澤知広 Gr 長は社内会議の為に欠席、吉田が伝達した。

大澤 Gr 長の資料は大変良く出来ており、生産経験者には分かり易かった。

グローバルなサプライチェーンには隔世の感があり、それだけに安定供給の維持の難しさや現役の苦労を感じた。(支部での希望があればお申し出下さい。了解を得た上でメールで提供できると考えます)

企業年金収支は経済指標の動向に左右されるが、今は今日明日が心配と言うことではないと言う内容だった。

1, 総会

総会は令和5年度の報告、決算報告など型通りの報告だが問題指摘は無かった。

期中から実施した「ミニ交流会」への援助は好評だったので今後も継続する。

令和6年度計画は5年度の実行実績を更に展開し40周年事業も具体的に考える。

そして引き続き現役員が担当する。役員交替の必要性を訴え役員参加を要請した。

2, 昼食懇親会

本庄に縁があった中野浩司(中部)さん、田中智英(東京)さんの参加もあり非常に賑やかであった。下の写真は総会風景で賑やかになる前。



企業同窓会の豊友会は全国で約2000人、学校同窓会に比較すれば小さいが現役時の

仕事を通じての絆は強い。今回もハグし合う、肩をたたき合う風景もあり、総会で真剣に話を聞く姿は現役時の種々の集会（社長講演、改善発表会）を思い出させた。そして総会後の懇親会では、人生の後半になるとこのような会が素晴らしくなることを改めて感じた会員も居たようだ。そして会うことの素晴らしさを感じたひと時だった。



この他、現役時の経験知や仲間意識が絆となりそれを背景にした会員活動を報告した。

一昨日（27日）にグループホームで慰問公演した「大澤照雄さんを座長とする本庄一座」や現役の経験知を嫁ぎ先の自治体で「自治体の食事改善活動で生かした高橋敏子さん」の例を報告した。

また、国家は高齢者社会の中で高齢者に何を期待しているのかを「高齢者対策基本法」の視点から解説した。以前は退職者自身が終わった人という概念にとらわれていたが高齢者対策基本法を見れば「終わった人」の概念は無い。法律条文の「国民」を「高齢者」と読み替える時期になっていることを紹介した。

しかし、現実には高齢者は日々、体力は落ち、病にさいなまれ段々小さく、力弱くなる。だが高齢者には高齢者の社会的使命（ミッション）がある。それだけに日々の生活では

「支え合って心豊かに生きる」ことを目標に生活しましょうと呼びかけた。

*高齢者対策基本法（平成7年）

第2条1、国民が生涯にわたって就業その他多様な社会的活動に参加する機会が確保され公正で活力ある社会

2、国民が生涯にわたって社会を構成にする重要な一員として尊重され、地域社会が自立と連帯の精神に立脚して形成される社会

3、国民が生涯にわたって健やかに充実して生活を営むことが出来る豊かな社会特に2項を見ると社会的活動への理解が必要とされていることが分かる。

喜寿のお祝い

本年度の対象者は21名で7名が参加しました。

右から多賀谷君江さん、桑原晴江さん

田島ゆき江さん、多賀谷幹男さん

長谷川勇さん、金本孝義さん、

井草利夫さん、

皆さん若いです。

左端は老外・吉田

